

テ住友家ニ入社スルヤ、予ハ予ノ信念ト住友家事業
經營ノ大綱ト完全ニ一致セルヲ知ツテ愉快ノ情禁不能
ハナカツタノデアアル、

明治四十年ト言ヘバ、諸君ノ中ニモ記憶猶新タナルモノア
ルベシ、彼ノ大暴動ノ年デアアル、予モ亦當時ヲ追懐シ、感
慨ノ深キヲ覺エル、其ノ時予ハ此ノ悲シムヘキ大暴動
ノ原因ガ種々アリタル中、「上下ノ意思ノ疎隔」ヲ以テ
其ノ最大ナルモノト信ジタ、サレバ予ハ相須ツコト尊フ
シテ而モ相會フ事疎キ當時ノ上下ノ關係ヲ改善シ
以テ理想トスル共存共榮ヲ齎ラスガ為メニハ下情ニ
通スルヲ最モ必要ナリト考ヘ、先 生野嶺山ニ赴キ
大澤飯場ニ寄食シ、身分ヲ秘シテ、純然タル勞働
者トナリ、手傳トシテ長時間ノ坑内勞働ニ従事シ

テ經驗ヲ積ミ、當時ノ歸來後ハ採鑛課ニ移リ、鑛夫ト
共ニ坑内ニ入りテ穴際、車、安、等全ク鑛夫ト同一ノ業
務ニ従ヒ、其ノ事情ニ通センコトニ努メタ、
斯クノ如クニシテ得タル體驗ヨリ予ガ採鑛課經營
ノ方針トシテ胸中ニ抱ク信念ハ、自ラ勞働者ヲ善導
スルコト、換言スレバ、勞働者ヲ一個ノ完全ナル善キ人
間ニ仕立上クルト云フ信念デアアル、

抑モ、資本家ガ多數ノ勞働者ヲ使役シテ事業ヲ
經營スル以上、其ノ使役スル勞働者ヲ訓育善導
シ立派ナル人格ヲ作り上げ、以テ善良ナル國民ト為
スベキコトハ、資本家ノ神聖ナル義務デアアル、天ガ能力
境遇ニ差異ヲ與ヘタルハ、賢ナル者富メル者ヲシテ
ハ、其ノ有力ヲ私セシムル為メテ決シテ善イ、其ノ餘カヲ以テ